

鳴教大

生活習慣病・非行防げ

一宮・内町小で「予防教育」



徳島市の一宮、内町両小学校で22日、子どもの生活習慣病や非行を未然に防ぐ「予防教育」の授業が行われた。鳴門教育大学予防教育科学教育研究センターが取り組む予防教育開発・実践的応用研究事業の一環。

一宮小では、同大と予防教育プログラムを共同研究する管理栄養士の野間智子さんが3年生16人に食育授業を実施。生活



習慣病の説明を受けた児童は4班に分かれ、体について話し合った。清水祐那さん(8)

は「病気になるまいよう毎朝ご飯をちゃんと食べたい」と話した。

内町小では、県警少年サポートセンター前所長で同大学院生の岡崎啓子さんが5年生28人に非行防止をテーマに授業。児童は友達に非行をやめさせる方法について、活発に意見を交わした。

両校の予防教育の授業は7月まで継続して行うほか、センターは鳴門第一小と同大付属小でも、うつ病やいじめの予防を目的とした授業に取り組んでいる。(大塚康代)

予防教育の授業で食事の大切さについて考える児童。徳島市の一宮小学校